

LIT410 比較文学

4年 1,2クォーター

担当教員 Nicolangelo Becce, Ph.D.

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング アクティブ・ラーニング科目

単位数 2

曜日・時限 未定

授業概要

グローバル世界で最も「グローバル」な研究の1つが比較文学である。これは、国のレベルを越えて、異文化間の視点からの文学作品や文化的表現を研究するものである。このコースでは、文学形式と文学ジャンルの多様性について概説しながら、文学作品の批評と理論的分析によって解釈するという主要なアプローチだけでなく、比較文学研究の歴史にも焦点を当てる。

この比較文学のコースでは、時間、空間、文化を横断する自己と他者の文学表象に注目し、異なる背景の人々とより良好なコミュニケーションを図る方法を学ぶ機会が得られる。

到達目標

- 1) 国のレベルを越えた異文化間の視点から文学作品を分析する。
- 2) 作品の理解と鑑賞に影響を与える歴史的、政治的、イデオロギー的および経済的な力と文学との関係について考察する。
- 3) 文学テキストや文化テキストが自己、他者、コミュニティの認識と理解をいかに変容させることができるのかを体験する。
- 4) 適切な理論的・方法論的ツールを用いて文学作品を解釈することに慣れる。その際、別の解釈を認め、批判的思考を発達させる。

先修科目

なし

教科書・参考資料等

リーディングテキストおよび研究資料はクラス内で配付する。

授業の方法

この授業は演習方式で行う。学生は課題のリーディングに基づいて、クラス内ディスカッションで自分自身の意見を述べて授業に貢献することが求められる。担当教員は、課題のリーディングテキストと受講生の質問や意見に基づいて、最初はクラス内ディスカッションを行い、そこから簡単な非公式の講義が行えるようにしていく。

成績評価

講読したテキスト（1点あるいは複数）についてレスポンスペーパーを書く。このペーパーはアカデミックライティングのような正式なものでもなくてもよいが、主題や学生自身の考え（よく分からないことも含む）を述べて、クラス内ディスカッションのために少なくとも1つは問題提起をするものでなければならない。コースの最後に最終論文を作成し、比較文学全般あるいは授業で扱った内容に関する一つの側面を分析する。学生はペーパーの内容を最後の授業で発表する。

成績

30%	クラス参加とクラス内ディスカッションへの貢献
30%	週ごとに提出するレスポンスペーパー
30%	最終論文
10%	最終論文の発表

授業スケジュール

授業スケジュール（変更の場合あり）

第1週：導入

第2週：比較文学とは何か？

比較文学の主要目的、方法論的パラメータ、他の人文科学分野との関連性についてクラス内ディスカッションを行う。

第3週：比較文学の起源と発達

19世紀において文学史の一種として出て来て、その後、文芸批評哲学へと発達した比較文学の起源に関してクラス内ディスカッションを行う。

第4週：文学間理論：発生的接触

文学コミュニティ、国文学、世界の文学の文学作品間の関係性（史料から接触の裏付けがあるもの）の研究についてクラス内ディスカッションを行う。

第5週：文学間理論：類型学的類似性

歴史的な視点とは全く関係なく、構造と類型の点において文学的類似性を共有する文学作品の相互関係を研究することについてクラス内ディスカッションを行う。

第6週：グローバル化とトランスナショナリズム（超国家主義）

文学作品の拡散と世界文学という考えにおけるグローバル化の役割についてクラス内ディスカッションを行う。

第7週：世界文学のキャンノンはあるのか？

文学的キャンノンを作り出すことにまつわる政治的、イデオロギー的な問題と全ての文学作品を世界規模で包含することができる文学的キャンノンを発達させる可能性についてクラス内ディスカッションを行う。

第8週：主題学 (Thematology) と表像学 (Imagology) (第1期クォーター終了)

比較文学の観点から見るテーマとイメージ、様々な文化的伝統と文学的文脈に現れるテーマとイメージの研究についてのクラス内ディスカッションを行う。

第9週：比較文学と翻訳研究

比較文学の分野で翻訳を行う際に最も大事なものは何かについてクラス内ディスカッションを行う。翻訳者の可視性、クリエイティブ・ライティング（創作）としての翻訳ということについても議論する。

第10週：文学史の語りの側面

文学史は、国文学の成長と発展を述べ、文学の鑑賞と研究の背後で作用している歴史的、政治的、イデオロギー的、経済的事例を明らかにしているフィクションの語りとして捉えて、それについてクラス内ディスカッションを行う。

第11週：比較文学とポストコロニアル研究

比較文学とポストコロニアル研究の2つの研究が互いに作用し、文化的帝国主義を凌駕し、克服していく方法についてクラス内ディスカッションを行う。

第12-13週：比較文学と他の研究・芸術

視覚芸術、音楽、ダンス、演劇、映画、テレビなどの研究と比較した文学研究によって開かれる様々な可能性についてクラス内ディスカッションを行う。

第14-15週：最終論文のプレゼンテーション

第16週：まとめ（第2クォーター終了）

コース評価・担当教員評価

事前・事後学習

- ・ 予習：参考図書の該当する章を予習してくること（1時間程度）。
- ・ 復習：授業内容を復習し、疑問点を整理すること（1時間程度）。